

## ② さまざまな場における環境学習の推進

環境学習は、家庭、学校、職場、地域など、あらゆる場を活用して推進する必要があります。今日の環境問題は、私たちの生活や社会経済活動そのものが主な要因と言われており、環境学習のきっかけはあらゆる所にあります。具体的な事象に触れ、生きた環境学習を総合的に推進することが、主体的に考え、行動につなげていくうえで大切な要素となります。

場	環境学習推進の視点
家庭	<p>[ねらい] 環境と暮らしの関係を学び、家族が協力して、環境への負荷が少ない生活を実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境への負荷が少ない生活行動を親が率先して実行する。</li> <li>・「しつけ」を通し、環境に配慮した行動の定着を図る。</li> <li>・家族で話し合い、全員で取り組む。</li> <li>・家族で一緒に自然とふれあう。</li> </ul>
学校	<p>[ねらい] 「人と環境」のかかわりについて総合的かつ科学的な理解を深め、環境問題を解決するための知識、思考力、判断力を養い、主体的に行動する態度を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学的な視点から環境問題を理解し、自ら考え、行動できるようにする。</li> <li>・すべての教科に内在している環境問題に気づき、総合的な理解を深める。</li> <li>・体験を通して主体的に行動する態度を養う。</li> </ul>
職場	<p>[ねらい] 経営理念に環境配慮行動を位置づけるなど、職場全体で環境への負荷が少ない活動を推進する。従業員が、各職業分野における専門家としての環境保全に関する専門知識を習得し、担当業務に生かす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営理念や社員教育の中に環境学習を位置づける。</li> <li>・企業活動と環境のかかわりについて理解を深める。</li> <li>・環境の保全に資する企業活動を展開する。</li> </ul>
地域	<p>[ねらい] 地域の人材や自然等を生かした参加型の環境学習を推進する。環境に配慮した地域づくりの企画・参加を通して、人と環境のかかわりについて実践的な理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の素材を活用した多様な環境学習を展開する。</li> <li>・企画、参加、協働を主体とした環境学習を推進する。</li> <li>・各主体の交流、連携を進める。</li> </ul>

## 家庭

人間としての基本的な感覚やマナー、ライフスタイルの基盤を形成するのは、家庭でのしつけや習慣です。

身近な環境について日常の出来事と結びつけながら家族で話し合ったり、日常生活の中で親が手本となって子どもたちと一緒に環境に配慮した行動をしたり、子どもたちが自然に親しむ機会を意識的に持ったりすることを通じて、環境に配慮する心や態度を養い、行動につなげることを習慣化することが大切です。

また、家庭は世代の異なる人により構成されており、伝統や歴史の継承を行うとともに、新しい発想を得やすい所です。年長者からは昔の環境について学び、子どもたちは学校等で学んだ新しい知識を家庭で生かすなど、家族と一緒に環境について話し合い、理解を深めることが大切です。

### 具体的な取組例

- ・家族で一緒に、マイ・バッグの利用等、環境に配慮した買い物を実践する。
- ・身近な環境について日常の出来事と結びつけながら家族で話し合う。
- ・日常生活の中で、節水や節電に心がける。
- ・自然とふれあえる自然観察会などに親子で参加する。
- ・科学館など身近な学習拠点を家族で利用し知識を深める。
- ・地域団体やNPO等が主催する環境保全活動に親子で参加する。
- ・子どもたちに日頃の手伝いや遊びを通じて環境に配慮した行動を身につけさせる。
- ・地域の美化活動などに積極的に参加する。



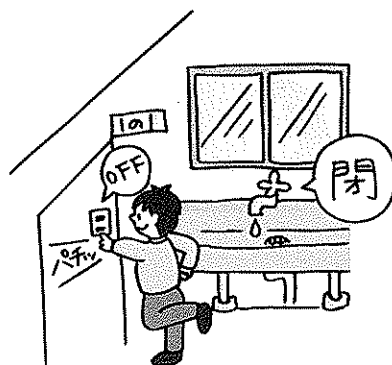
## 学校

学校は、子どもたちの成長段階に応じて社会生活の基礎を身につけるための重要な役割を担っています。そのため、子どもたちが暮らしと環境とのかわりについて総合的・科学的な理解を深め、環境に配慮できる心を育むことができるよう体系的かつ継続的な環境学習の展開が求められます。

主に各教科の学習や総合的な学習の時間においては、正しい知識を習得できるようにするとともに、環境に対する思考力や判断力を養うことが大切です。また、自然体験や環境保全活動などの体験学習を通して、問題解決に向けて主体的に行動できる態度を身に付けさせることが大切です。

### 具体的な取組例

- ・身近な環境について日常の出来事と結びつけながら話し合う。
- ・校庭や学校周辺の身近な環境の観察などを通して、自然に関心を持たせる。
- ・環境関連施設等の見学を通して、環境に関心を持たせる。
- ・子どもたちが楽しみながら環境について学べるように具体的な活動や実験、ゲーム的な要素を取り入れた野外学習や体験活動などを工夫する。
- ・地域の環境を教材として取り上げる。
- ・日常の学校生活の中で、節水や節電、ゴミの分別等を心がけさせる。
- ・学校周辺の美化活動を行う。
- ・校舎や校庭を自然や環境を学習する場という視点から整備する。
- ・図書室に環境コーナーを設置したり、空き教室を活用して環境学習室を設けたりするなど、子どもたちが自発的に学べる場を整備する。
- ・学校外の講師等の参加・協力を積極的に得て、効果的に学習を進める。
- ・参観日などに環境学習会を開催して学習の様子を見てもらうなど、学校で習得した知識を家庭や地域で実践できるよう、家庭や地域との連携をはかる。
- ・教職員に対する環境教育研修を充実させる。



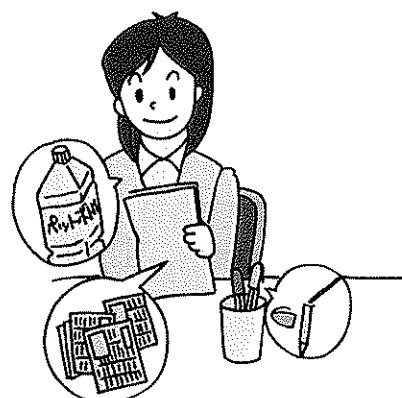
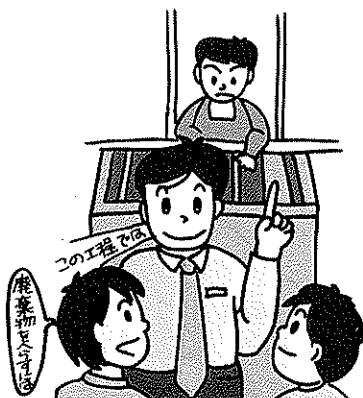
## 職場

職場は、社会人に対する環境学習の場の一つとして重要な役割が期待されています。職場全体で、組織的に環境学習が推進できる体制を整備して取り組むことが大切です。

特に、そこで働く人々は、各分野における専門家として豊富な知識を有しており、その知識を生かした高度な環境学習の実施が期待されます。また、法を遵守した環境意識の高い職員を育てるため、経営理念に環境配慮行動を位置づけるなど、環境学習の重要性を全員で確認し、推進するための環境を整備することが大切です。

### 具体的な取組例

- ・ 職場全体で環境学習を進める体制を整備する。
- ・ 自らの事業活動と地域や地球規模の環境問題とのかかわりを認識できるような学習会を開催する。
- ・ 排水処理の徹底や、廃棄物の量を減らす工夫など、環境に配慮した事業活動について組織的に検討を行う。
- ・ 低公害車の導入やグリーン購入など、循環型社会の形成に資する取組を実践する。
- ・ 節水、節電、ゴミの分別など、職場における環境配慮行動をルール化して全員で取り組む。
- ・ 環境学習の一環として地域や学校に職場を開放したり、情報を提供するなど、積極的に会社の取組をPRする。



## 地域

私たちは、地域の環境を共有して生活をしています。地域は、私たちが環境に対する認識を共有し、協力して取り組む場として期待されます。

例えば、自分たちの地域に愛着がもてるような取組、自らの暮らしと地域環境とのかかわりを気づかせる取組、特徴ある自然や伝統文化を生かした取組などが考えられます。こうした地域特性を生かした参加型の環境学習を住民が協力して企画・実施し、地域の環境は自分たちの力で良くしていくという共通認識を醸成していくことが求められます。

また、地域のふれあいを通じて、子どもたちの豊かな人間性を育み、人と環境のかかわりの大切さに気づく場としても期待されます。

### 具体的な取組例

- ・ 地域の人材を活用した学習会を開催する。
- ・ 地域の学習会などで身近な生活環境や自然環境等について良い点や悪い点を調べ、どのように改善すればよいか話し合う。
- ・ 町内会や子ども会などで美化活動を行う。
- ・ 行政や企業の出前講座、NPOや地元の人材を活用した研修会などを開催する。
- ・ 地域の公園などを自然に親しめるように整備する。
- ・ 町内会のお祭りなどはゴミをできるだけ出さない工夫をする。
- ・ 地域に伝わる歴史や伝統、昔から伝わる環境に配慮した暮らし方の知恵などを地域の高齢者から学ぶ。
- ・ 子ども会、PTA、老人会などのさまざまな団体間の連携を図り、地域の環境を保全するための活動を企画・実施する。
- ・ 学校や企業とも連携し、地域が一体となった環境保全活動を展開する。

